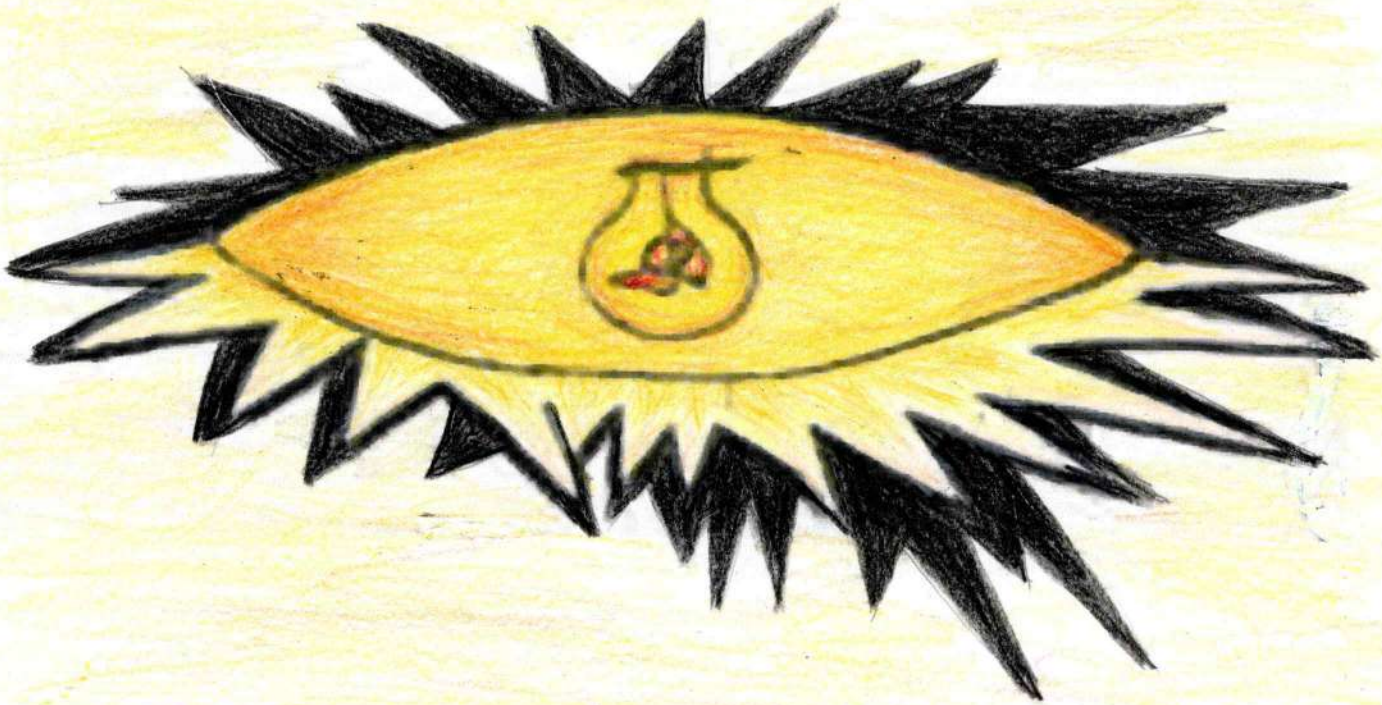
パブロ・ピカソ『ゲルニカ』の世界

7.電灯（太陽の中にランプがあり、「目」とも解釈できる）



太陽を「目」と見立てており、神の目を連想させる。
内部に電球が描かれた光源は、神の目、つまり全てを明るみに出す証人を表していると考えられています。

「ゲルニカ」に描かれているものとは？その意味とは？

「ゲルニカ」は、スペインの内戦を題材にした作品です。1937年に反乱軍のフランコ将軍を支援するナチスによって行われたスペイン北部の小都市ゲルニカに対する無差別爆撃が題材になっています。この事件は、当時ファシズムの残酷さを象徴するものとして、国際的に激しい批判の対象とされていました。

反戦の意を込めて

爆撃の様子をリアルに描くのではなく、様々な角度から見た姿を画面にまとめて描くキュビズムや、現実を超越したシュルレアリスムなどの手法で描いています。　これによって、ゲルニカ爆撃だけでなく、戦争の悲劇さを人々に訴えています。

制作： 5年10月26日

作者名（ニックネーム）	太郎冠者

Famous Painters'Work 名画で塗り絵を楽しみましょう